



1



2



3

1. 腐化不付着の土器
3. イネ胚乳

2. イネ胚乳

2cm (1) 1cm (1) 3mm (3)

第169図 土器内付着の腐化種実

第4節 木の本遺跡の石器の石種と原石の採石推定地

奥田 尚

八尾市木之本にある木の本遺跡から出土した石器の石材を肉眼で観察した。観察結果と岩相から推定される石材の採石地について述べる。

識別できた石種は、アライト質黒雲母花崗岩、斑櫛岩、花崗班岩、ひん岩A、ひん岩B、輝緑岩A、輝緑岩B、流紋岩A、流紋岩B、流紋岩C、流紋岩D、流紋岩E、流紋岩F、流紋岩G、流紋岩H、石英安山岩A、石英安山岩B、石英安山岩C、輝石安山岩A、輝石安山岩B、輝石安山岩C、輝石安山岩D、輝石安山岩E、輝石安山岩F、輝石安山岩G、輝石安山岩H、輝石安山岩I、輝石安山岩J、輝石安山岩K、流紋岩質溶結凝灰岩、石英安山岩質溶結凝灰岩、石英安山岩質軽石、玄武岩質火山礫凝灰岩、細粒砂岩A、細粒砂岩B、中粒砂岩A、中粒砂岩B、粗粒砂岩、玄武岩質凝灰岩質片岩A、玄武岩質凝灰岩質片岩B、玄武岩質凝灰岩質点紋片岩、泥質点紋片岩、泥岩ホルンフェルスA、泥岩ホルンフェルスB、蛇紋岩？である。

アライト質黒雲母花崗岩：報告書番号49 色は灰白色で、粒形が亜角である。石英・長石・黒雲母が囁み合っている。石英は無色透明、粒径が0.3~1mm、量が中である。長石は灰白色、粒径が0.2~0.8mm、量が非常に多い。黒雲母は黒色、板状で、粒径が0.2~0.3mm、量がごくごく僅かである。

このような岩相の石は、付近の石川や大和川、東除川、西除川の川原石にも見られる。粒形が亜角であり、付近の川原で採石されたか、居住地付近の礫層の礫であろう。

斑櫛岩：報告書番号48 色は暗灰色である。長石と角閃石が囁み合っている。角閃石は大きなものから小さなものと変化がある。長石は灰白色で、粒径が0.5~4mm、量が中である。角閃石は黒色、柱状で、粒径が0.5~10mm、量が非常に多い。

このような角閃石に特徴をもつ岩相の石は桜井市音羽山付近に分布する斑櫛岩の岩相の一部に似ている。大和川の川原石にもみられる。原石の形状が不明のため、採石地を限定できない。

花崗班岩：報告書番号74 色は灰色で、球状の発泡孔が散在する。孔径は1~1.5mm、量が僅かである。斑晶鉱物は石英・長石・黒雲母である。石英は無色透明、粒径が0.4~0.5mm、量が僅かである。長石は灰白色・淡桃色で、短柱状、粒径が0.3~2mm、量が多い。黒雲母は黒色、板状、粒径が0.1~0.5mm、量が僅かである。石基はややガラス質である。

このような岩相を示す石は古期層に貫入した岩脈として産する。大和川や石川、横尾川などの川原石にもみられる。原石の形状が不明のため、採石地を限定し難い。

ひん岩A：報告書番号40 色は灰緑色である。斑晶鉱物は長石・黒雲母・輝石である。長石は灰緑色、短柱状で、粒径が0.2~0.4mm、量が多い。黒雲母は茶褐色、粒状で、粒径が0.3~0.4mm、量が僅かである。輝石は黒色、粒状で、粒径が0.2~0.4mm、量が僅かである。石基はガラス質である。

このような岩相を示す石は古期層に貫入している岩脈の石に似ている。各地でみられ、また、

河川の川原石にもみられる。採取地については限定し難い。

ひん岩B：報告書番号58 色は淡灰緑色で、長石の斑晶が目立つ。斑晶鉱物は長石・黒雲母・角閃石である。長石は白色、短柱状で、粒径が0.5~4mm、量が非常に多い。黒雲母は黒色、板状で、粒径が0.3~0.7mm、量が僅かである。角閃石は黒色、短柱状で、粒径が0.5~4mm、量が中である。細粒柱状の角閃石が集合して大きな塊をなしている。石基はガラス質である。

このような岩相を示す石を見聞していない。産地不明。

輝緑岩A：報告書番号45 色は暗緑色である。斑晶鉱物は長石と輝石である。長石は灰色透明、粒状で、粒径が0.3~0.5mm、量が多い。輝石は黒色、粒状で、粒径が0.2~0.5mm、量が多い。石基はガラス質である。

このような石は古期岩類に貫入している岩脈にみられることが多い。また、川原石としてもごく僅かにみられることがあり、採石地を限定し難い。

輝緑岩B：報告書番号38 色は灰緑色で、長石の斑晶が目立つ。斑晶鉱物は長石と輝石である。長石は白色、粒径が0.5~5mm、量が非常に多い。輝石は黒色、短柱状で、粒径が0.1~0.2mm、量が多い。石基はガラス質である。

このような石は古期岩類に貫入している岩脈にみられることが多い。また、川原石としてもごく僅かにみられることがあり、採石地を限定し難い。

流紋岩A：報告書番号7 8 色は灰白色で、板状節理がある。斑晶鉱物は石英・長石・黒雲母である。石英は無色透明、粒径が0.1mm、量が僅かである。長石は無色透明・灰白色透明、短柱状で、粒径が0.1~0.2mm、量が多い。黒雲母は黒色、板状で、粒径が0.1mm、量がごくごく僅かである。石基はガラス質である。

このような岩相を示す石は大和三山の一つである耳成山に分布する流紋岩の岩相の一部に似ている。

流紋岩B：報告書番号47 色は灰緑色で、発泡孔が散在する。発泡孔は孔形が球状で、孔径が0.5~5mm、量が僅かである。斑晶鉱物は石英・長石・黒雲母である。石英は無色透明、粒径が0.1~0.2mm、量が中である。黒雲母は黒色、板状で、粒径が0.2~0.5mm、量がごく僅かである。長石は灰白色、短柱状で、粒径が0.1~5mm、量が多い。石基はガラス質である。

このような岩相を示す石を見聞していない。産地不明。

流紋岩C：報告書番号60 63 色は暗灰色で、粒形が亜円・円である。斑晶鉱物が認められなく、石基がガラス質である。

このような岩相を示す石は和泉層群が分布する範囲から流出する河川の疊に稀であるがみられる。石川や横尾川の川原でもみられる。

流紋岩D：報告書番号64 色は灰白色で、粒形が亜円である。流理があり、縞状の模様が瘤状の塊をなす。ガラス質で縞模様がある。

このような岩相を示す石は二上層群上部ドンズルボー層の雌岳流紋岩の岩相の一部に似てい

る。縞状の模様が瘤状の塊をなすような流紋岩は當麻町や香芝市の雌岳と雄岳の鞍部から派生した谷や太子町春日の山麓の谷などに礫としてみられる。河内の飛鳥川などの疊にも稀であるがみられる。

流紋岩E：報告書番号71 色は灰色がかった赤色で、粒形が円である。斑晶鉱物が認められなく、石基がガラス質である。

このような岩相を示す石は和泉層群が分布する範囲から流出する河川の疊に稀であるがみられる。石川や横尾川の河川の川原でもみられる。

流紋岩F：報告書番号72 79 80 82 84 色は灰白色で、微かに流理がみられる。斑晶鉱物は石英・長石・黒雲母である。石英は無色透明、粒径が $0.1\sim 0.2\text{mm}$ 、量がごく僅かである。長石は灰白色、短柱状、粒径が $0.1\sim 0.2\text{mm}$ 、量が多い。黒雲母は黒色、板状で、粒径が 0.3mm 、量がごくごく僅かである。石基はガラス質である。

このような岩相を示す石は大和三山の畝傍山や耳成山、二上山の雌岳に分布する流紋岩の岩相の一部に似ている。採取地は限定できない。

流紋岩G：報告書番号81 色は灰色である。斑晶鉱物は石英・長石・黒雲母である。石英は無色透明、粒径が 0.1mm 、量がごくごく僅かである。長石は灰白色、粒径が $0.1\sim 0.2\text{mm}$ 、量が非常に多い。石基はガラス質である。

このような岩相を示す石を見聞していない。産地不明。

流紋岩H：報告書番号83 色は灰褐色で、流理がある。斑晶鉱物は石英と長石である。石英は無色透明、粒径が 0.1mm 、量が僅かである。複六角錐をなす。長石は灰白色、短柱状で、粒径が $0.1\sim 0.2\text{mm}$ 、量が多い。黒雲母は黒色、板状で、粒径が 0.1mm 、量がごくごく僅かである。石基はガラス質である。

このような岩相を示す石を見聞していない。産地不明。

石英安山岩A：報告書番号37 色は灰褐色で、粒形が亜円である。軽石や捕獲岩がみられ、斑晶鉱物が石英・長石・角閃石である。捕獲岩は流紋岩である。流紋岩は梢円形あるいはレンズ状をなし、粒径が $10\sim 30\text{mm}$ 、石英粒が粗くて多い。軽石は茶灰色、粒状で、粒径が $0.2\sim 0.4\text{mm}$ 、量が多い。石英は無色透明、粒径が 0.2mm 、量がごく僅かである。複六角錐を示すものもある。長石は灰白色、短柱状で、粒径が $0.2\sim 0.3\text{mm}$ 、量が多い。角閃石は黒色、柱状で、粒径が $0.1\sim 0.2\text{mm}$ 、量が僅かである。石基はガラス質である。

このような岩相を示す石を見聞していない。産地不明。

石英安山岩B：報告書番号67 色は灰色である。不定形な発泡孔が散在する。孔径が $1\sim 6\text{mm}$ 、量が中である。斑晶鉱物は石英・長石・輝石である。石英は暗灰色透明で、粒径が $0.1\sim 1.5\text{mm}$ 、量が中である。長石は灰白色、柱状で、粒径が $0.2\sim 0.7\text{mm}$ 、量が中である。輝石は褐色、短柱状で、粒径が $0.1\sim 0.2\text{mm}$ 、量がごくごく僅かである。石基はガラス質である。

このような岩相を示す石を見聞していない。産地不明。

石英安山岩C：報告書番号85 色は灰色である。構成粒は輝石・石英・長石・角閃石である。輝石は褐色、レンズ状で、長径が0.4~0.6mm、量が多い。石英は無色透明、粒径が0.8mm、量がごくごく僅かである。複六角錐をなす。長石は灰白色、粒径が0.2~0.7mm、量がごく僅かである。角閃石は黒色、粒状で、粒径が0.6~0.8mm、量が多い。石基はガラス質である。

このような岩相を示す石を見聞していない。産地不明。

輝石安山岩A：報告書番号1 2 3 4 5 23 26 30 33 34 36 色は灰色である。捕獲岩に片麻状花崗岩、捕獲晶に長石がみられるものもある。片麻状花崗岩は灰色で、粒形が亜円、粒径が4mmである。石英・長石・黒雲母が噛み合っている。長石は灰白色透明で、粒形が亜角、粒径が0.7mmである。劈開が顕著である。斑晶鉱物は長石と輝石である。長石は無色透明、粒状で、粒径が0.05~0.1mm、量が多い。輝石は黒色、粒径が0.01mm、量が僅かである。石基はガラス質である。

このような岩相を示す石は羽曳野市春日山に分布する春日山火山岩や太子町春日の石まくり火山岩の岩相の一部に似ている。しかし、柏原市や香芝市に分布する大阪層群の疊層の礫にもみられる。原石の形状が不明のため、採石地を限定し難い。

輝石安山岩B：報告書番号 6 28 色は青灰色である。捕獲岩は暗灰色や褐色の片麻状花崗岩で、粒径が1~8mm、量がごくごく僅かである。斑晶鉱物は長石と輝石である。長石は無色透明、短柱状・柱状で、粒径が0.3~0.5mm、量が多い。輝石は黒色、柱状で、粒径が1~2mm、量がごく僅かである。石基はガラス質である。

このような岩相を示す石を見聞していない。産地不明。

輝石安山岩C：報告書番号 9 色は灰色で、発泡孔が多い。孔形が不定形で、孔径が1~1.5mmである。石英の捕獲晶がある。石英は無色透明、粒径が0.2~0.5mm、量がごく僅かである。斑晶鉱物は長石と輝石である。長石は灰白色、粒状・柱状で、粒径が0.3~1mm、量が中である。輝石は青銅色と褐色のものとがある。青銅色透明の輝石は柱状で、粒径が0.5~1mm、量がごくごく僅かである。褐色の輝石は柱状で、粒径が0.1~0.5mm、量がごく僅かである。石基はやや粒状である。

このような岩相を示す石は、富田林市嶽山に産する輝石安山岩の岩相に似ている。

輝石安山岩D：報告書番号 19 色は暗灰色で、流理がある。斑晶鉱物は長石と輝石である。長石は灰白色、短柱状・柱状で、粒径が0.2~0.8mm、量が多い。輝石は黒色、短柱状で、粒径が0.1~0.2mm、量が僅かである。石基はガラス質である。

このような岩相を示す石を見聞していない。産地不明。

輝石安山岩E：報告書番号 20 21 29 31 32 77 色は灰色で、板状節理がある。斑晶鉱物は長石と輝石である。長石は灰白色・無色透明である。灰白色の長石は、柱状で、粒径が1~1.5mm、量がごく僅かである。無色透明の長石は粒状で、粒径が0.1~0.3mm、量が非常に多い。輝石は黒色、短柱状で、粒径が0.1~0.2mm、量がごくごく僅かである。石基はガラス質である。

このような岩相を示す石は春日山火山岩や石まくり火山岩の岩相の一部に似ている。しかし、柏原市や香芝市に分布する大阪層群の礫層の礫にもみられる。

輝石安山岩F：報告書番号 22 27 色は灰色である。捕獲岩は花崗岩である。花崗岩は灰色で、粒形が両円、粒径が3mmである。石英・長石・白雲母が噛み合っている。斑品鉱物は長石と輝石である。長石は無色透明、粒状で、粒径が0.1~0.2mm、量が多い。稀に、1mmに及ぶものがある。輝石は黒色・褐色透明、柱状で、粒径が0.1~0.2mm、量が僅かである。稀に、1mmに及ぶものもある。石基はガラス質である。

このような岩相を示す石を見聞していない。産地不明。

輝石安山岩G：報告書番号 35 色は灰色で、流理がある。捕獲岩は花崗岩で、捕獲品は石英である。花崗岩は灰白色で、粒形が亜角、粒径が3mmである。石英・長石・黒雲母が噛み合っている。石英は無色透明で、粒形が亜角、粒径が0.3mmである。斑品鉱物は長石と輝石である。長石は無色透明、粒状で、粒径が0.1mm、量が多い。輝石は黒褐色透明、柱状で、粒径が0.2~0.4mm、量がごく僅かである。石基はガラス質である。

このような岩相を示す石は春日山火山岩や石まくり火山岩の岩相の一部に似ている。しかし、柏原市や香芝市に分布する大阪層群の礫層の礫にもみられる。

輝石安山岩H：報告書番号 65 色は灰色で、粒形が円?か。部分的に細粒の長石と輝石が集合した球状部が見られる。粒径が1.5mm、量がごくごく僅かである。斑品鉱物は長石と輝石である。長石は無色透明、短柱状で、粒径が0.3~0.5mm、量が僅かである。輝石は黒色と青銅色のものがある。黒色の輝石は、柱状で、0.1~1.5mm、量が僅かである。青銅色透明の輝石は柱状・粒状で、粒径が0.3~0.7mm、量が中である。石基はガラス質である。

このような岩相を示す石を見聞していない。産地不明。

輝石安山岩I：報告書番号 68 色は黒色で、捕獲品や品洞がみられる。捕獲品は石英で、無色透明、粒形が角、粒径が0.3~0.5mm、量がごくごく僅かである。品洞には水晶の結晶がみられる。長石は灰白色で、粒径が0.2~0.7mm、量がごく僅かである。輝石は黒色、短柱状で、粒径が0.4mm、量がごく僅かである。石基はガラス質である。

このような岩相を示す石を見聞していない。産地不明。

輝石安山岩J：報告書番号 69 70 色は黒色で、流理がある。斑品鉱物は長石と輝石である。長石は灰白色、柱状で、粒径が0.2~0.4mm、量が多い。輝石は黒色、短柱状で、粒径が0.1~0.2mm、量がごく僅かである。石基はガラス質である。

このような岩相を示す石は春日山火山岩や石まくり火山岩の岩相の一部に似ている。しかし、同様の岩相を示す石は香芝市や柏原市に分布する大阪層群の礫層中の礫にもみられる。

輝石安山岩K：報告書番号 78 色は灰色で、発泡孔がある。孔径が0.5~1.5mm、量が多い。捕獲岩は花崗岩で、粒形が角、粒径が1~1.5mm、量がごく僅かである。石英と長石が噛み合っている。斑品鉱物は長石と輝石である。長石は灰白色、粒径が0.2~1.5mm、量が中である。輝

石は黒色透明、柱状で、粒径が0.2~0.5mm、量が僅かである。石基はガラス質である。

このような岩相を示す石を見聞していない。産地不明。

流紋岩質溶結凝灰岩：報告書番号 66 色は濃青緑色で、粒形が円である。顯著な溶結をなす。斑晶鉱物は石英と長石である。石英は無色透明、粒径が0.3~1mm、量が中である。複六角錐あるいはその一部が認められるものが中である。長石は灰白色、粒径が0.3~5mm、量が多い。基質はガラス質である。

このような岩相を示す石は猪名川や武庫川流域に分布する長石の斑晶が顯著な流紋岩質溶結凝灰岩に似ている。粒形が円にあることから河口の石であろう。同じような石は瓜生堂遺跡からも出土している。しかし、瓜生堂遺跡の石は一抱え以上もある大きな石である。

石英安山岩質溶結凝灰岩：報告書番号 42 色は青灰色で、顯著な溶結を示す。微粒の長石と輝石の斑晶がみられる。長石は灰白色で、柱状で、粒径が0.05mm、量が中である。輝石は黒色、粒状で、粒径が0.01mm、量が僅かである。基質はややガラス質である。

このような岩相を示す石は、日本海側に分布する緑色疑灰岩の岩相の一部に似ている。管玉や勾玉、鍬形石や石釧などの石製品の原料とされている石と同じである。

石英安山岩質軽石：登録番号1310 色は暗灰色で、粒形が亜円である。発泡孔が非常に多く、斑晶鉱物が石英・長石・輝石である。発泡孔は孔形が球状で、孔径が0.5~6mm、量が非常に多い。石英は無色透明、粒状で、粒径が0.5mm、量がごくごく僅かである。長石は無色透明、短柱状で、粒径が0.5mm、量がごくごく僅かである。輝石は暗緑色透明、短柱状で、粒径が0.3~1mm、量がごく僅かである。石基はガラス質である。

このような岩相を示す石は姶良火山の噴出物の軽石の一部に似ている。紀伊半島西南部の海岸等でも見られる。

玄武岩質火山礫凝灰岩：報告書番号 39 色は灰緑色で、溶結している。構成粒種は火山礫・長石・輝石である。火山礫は灰緑色で、粒形が亜角、粒径が1~15mm、量が僅かである。ガラス質のものである。長石は灰白色、粒径が0.3~0.4mm、量が中である。輝石は黒色、粒径が0.2~0.3mm、量がごくごく僅かである。基質は緻密で、ややガラス質である。

このような岩相を示す石は丹波帯や秩父帯の中生界に分布する海嶺起源の玄武岩質岩の岩相の一部に似ている。京都市北部には広く分布しており、鴨川や桂川などの川原石にみられる。淀川では僅かであるがみられる。紀ノ川の川原石にもみられ、近距離としては淀川となる。

細粒砂岩A：報告書番号 44 75 76 86 色は灰色である。構成粒種は石英・長石・黒雲母・角閃石である。石英は無色透明、粒形が角、粒径が0.1~0.2mm、量が多い。長石は灰白色、粒形が角、粒径が0.1~0.2mm、量が多い。黒雲母は黒色、板状で、粒径が0.1~0.2mm、量がごく僅かである。角閃石は黒色、粒形が角、粒径が0.2mm、量が僅かである。

このような岩相の石は和泉層群の砂岩の岩相の一部に似ている。原石の形状が不明のため、採石地を限定し難い。

細粒砂岩B：報告書番号 87 色は灰色で、粒形が円である。構成粒種は花崗岩・石英・長石・黒雲母である。花崗岩は灰色、粒形が亜角、粒径が0.3~0.4mm、量が僅かである。石英・長石・黒雲母がかみ合っている。石英は無色透明、粒形が角、粒径が0.1~0.2mm、量が多い。長石は灰白色、粒形が角、粒径が0.1~0.2mm、量が多い。黒雲母は黒色、板状で、粒径が0.1~0.3mm、量がごく僅かである。

このような岩相の石は和泉層群の砂岩の岩相の一部に似ている。粒形が円であることから、石川や楕尾側の川原石が推定される。

中粒砂岩A：報告書番号 46 61 62 色は青灰色で、粒形が亜円・円である。構成粒種は流紋岩・石英・長石・角閃石である。流紋岩は灰色・青灰色で、粒形が角・亜角、粒径が0.2~0.4mm、量が中である。石英の斑晶がみられるものもある。石英は無色透明、粒形が角、粒径が0.2~0.3mm、量が多い。複六角錐あるいはその一部が認められるものが中である。長石は灰白色、粒形が角、粒径が0.2~0.3mm、量が僅かである。角閃石は黒色、粒形が角、粒径が0.2mm、量がごくごく僅かである。

このような岩相を示す石は和泉層群の砂岩の岩相の一部に似ている。粒形が左右対称の円螺は海岸の礫と推定され、泉南から和歌山市の海岸付近が推定される。

中粒砂岩B：報告書番号 50 51 53 54 55 56 57 59 73 色は灰色である。粒形が亜角や不明のものがある。構成粒種は花崗岩・流紋岩・石英・長石・角閃石である。花崗岩は灰白色、粒形が角、粒径が0.4mm、量がごくごく僅かである。石英・長石・黒雲母が噛み合っている。流紋岩は灰色・暗灰色で、粒形が角・亜角、粒径が0.2~0.5mm、量が中である。石英の斑晶がみられるものもある。石英は無色透明、粒形が角、粒径が0.2~0.4mm、量が中である。複六角錐あるいはその一部が認められるものが中である。長石は灰白色、粒形が亜角、粒径が0.2~0.4mm、量が僅かである。角閃石は黒色、粒形が角、粒径が0.4mm、量がごくごく僅かである。

このような岩相を示す石は和泉層群の砂岩の岩相の一部に似ている。粒形が亜角であるものは、石川や和泉地域の河川礫と推定される。

粗粒砂岩：報告書番号 52 色は暗灰色で、粒形が亜円である。構成粒種は流紋岩・石英・長石である。流紋岩は灰白色・灰色・褐色で、粒形が亜角、粒径が0.8~3mm、量が多い。石英の斑晶がみられるものがある。石英は無色透明、粒形が角、粒径が0.5~1.5mm、量が中である。複六角錐を示すものが中である。長石は灰白色、粒形が角、粒径が0.5~1.5mm、量が中である。

このような岩相の石は和泉層群の礫質砂岩の岩相の一部に似ている。粒形が亜円であることから石川や東除川、西除川等の川原石と推定される。

玄武質凝灰岩質片岩A：資料番号 15 16 色は淡灰緑色で、片理が顯著である。構成鉱物粒は長石・白雲母・輝石である。長石は灰色透明、柱状で、粒径が0.2~0.7mm、量が中である。白雲母は無色透明、板状で、粒径が0.1~0.2mm、量が中である。輝石は黒色透明、粒状で、粒径が0.2~0.5mm、量が中である。基質はガラス質である。

このような岩相を示す石は三波川帯の片岩が分布する付近にみられる石である。紀ノ川流域や吉野川流域にみられる石である。

玄武岩質凝灰岩質片岩B：資料番号17 色は灰緑色で、片理が顕著である。構成鉱物粒は長石・輝石である。長石は青灰緑色透明、柱状で、粒径が0.3～0.7mm、量が中である。輝石は黒色透明、粒状・柱状で、粒径が0.3～0.8mm、量が僅かである。基質はガラス質である。

このような岩相を示す石は三波川帯の片岩が分布する付近にみられる石である。紀ノ川流域や吉野川流域にみられる石である。

玄武岩質凝灰岩質点紋片岩：資料番号10 11 12 13 14 色は青灰緑色で、片理が顕著である。構成鉱物粒は長石・白雲母・輝石である。長石は無色透明、球状で、粒径が0.1mm、量が中である。白雲母は無色透明、板状で、粒径が0.1～0.2mm、量が多い。輝石は黒色透明、粒状で、粒径が0.05～0.1mm、量が僅かである。基質はガラス質である。

このような岩相を示す石は三波川帯の片岩が分布する付近にみられる点紋ができかけの石である。紀ノ川流域や吉野川流域にみられる石である。

泥質点紋片岩：報告書番号24 色は暗灰色で、黒色と白色の縞模様をなす。片理が顕著である。構成鉱物粒は長石と白雲母である。長石は白色、球状で、粒径が0.1mm、量が多い。白雲母は無色透明、板状で、粒径が0.02mm、量が多い。基質はガラス質である。

このような岩相を示す石は三波川帯の片岩が分布する付近にみられる点紋ができかけの石である。紀ノ川流域や吉野川流域にみられる石である。

泥岩ホルンフェルスA：報告書番号18 色は灰色で、片理が顕著である。片理方向に鉱物粒が並ぶ。石英は無色透明、粒状で、粒径が0.2～0.3mm、量が多い。綿雲母は無色透明、板状で、粒径が0.05～0.1mm、量が多い。

このような岩相を示す石を見聞していない。産地不明。

泥岩ホルンフェルスB：報告書番号41 色は灰緑色で、片理が顕著である。片理に沿って0.01mmの黒雲母が並んでいる。稀に0.05mmの長石の斑晶もみられる。

このような岩相を示す石を見聞していない。産地不明。

蛇紋岩？：報告書番号43 色は灰緑色である。付着物が多く、表面の観察がし難い。輝緑岩の可能性もある。



図版一 木の本遺跡全景



(西から)



(南から)

図版2
弥生前期遺構面遺景



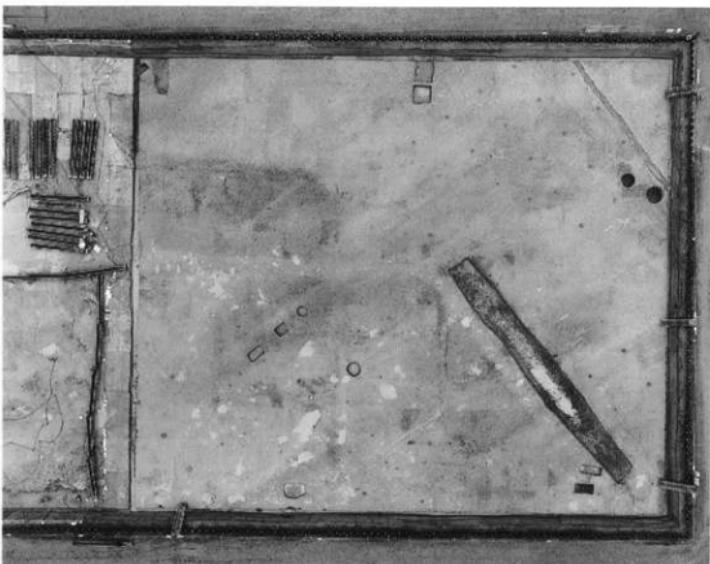
(西部)



(東部)



第1遺構面垂直写真（西部）



第1遺構面垂直写真（東部）



第2遺構面垂直写真（西部）



第2遺構面垂直写真（東部）



第3遺構面垂直写真（西部）



第3遺構面垂直写真（東部）



第4遺構面垂直写真（西部）



第4遺構面垂直写真（東部）



第1遺構面西部（南から）



第1遺構面東部（南から）



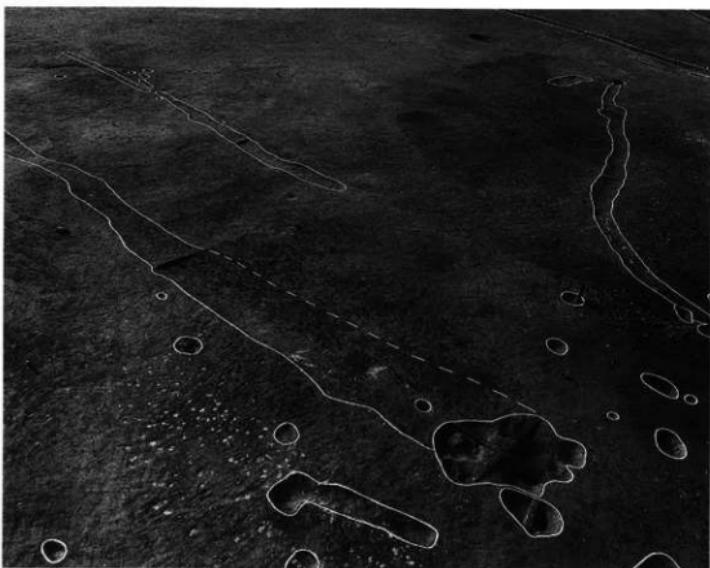
第2遺構面西部（西から）



第2遺構面東部（南から）



第3遺構面西部（西から）



第3遺構面東部（北から）



第4遺構面西部（西から）



第4遺構面東部（南から）



第4遺構面東部（北から）



第4遺構面東部（南から）



流路0183西側完掘状況（西から）



流路0183西端部分完掘状況（東から）



流路O183東側完掘状況（南から）



流路O183土層断面（A～A'）



流路0183遺物出土状況1



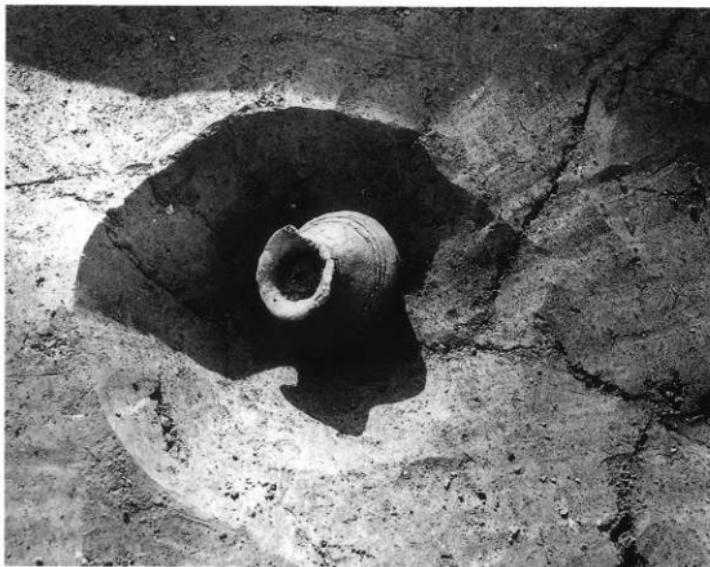
流路0183遺物出土状況2



流路0183遺物出土状況3



流路0183遺物出土状況4



土坑0159遺物出土状況



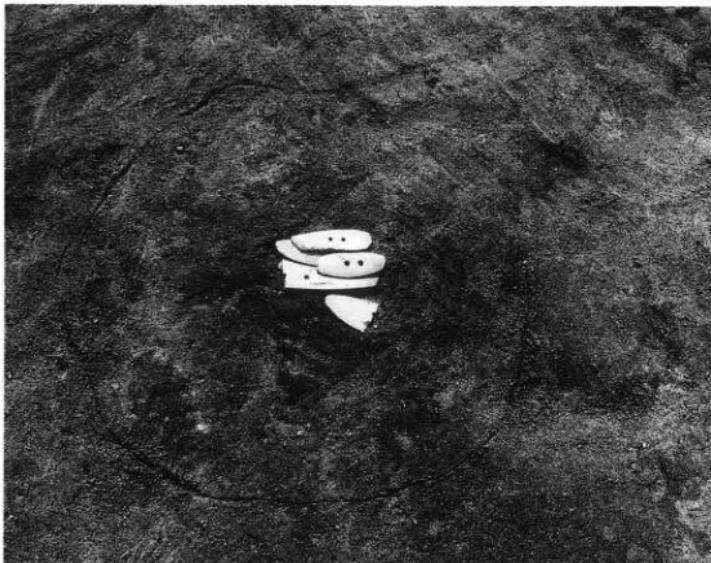
土坑0427遺物出土状況



土器棺0345出土状況1



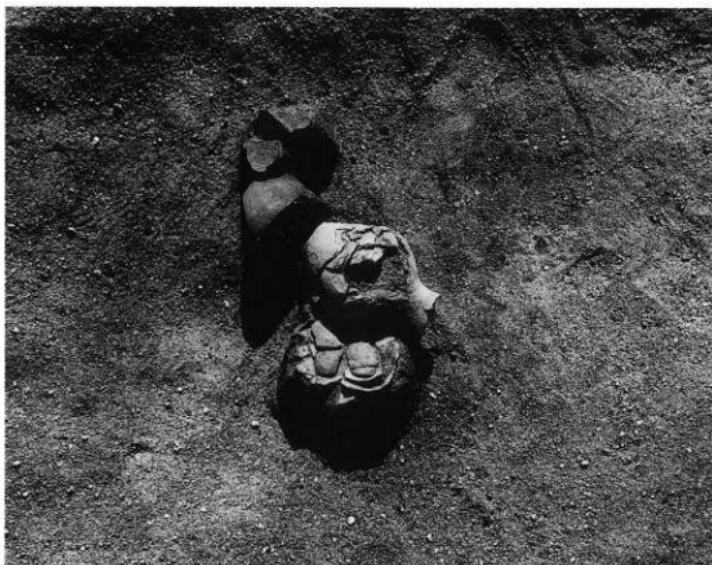
土器棺0345出土状況2



土坑0319石包丁出土状況



土坑0450遺物出土状況



土坑0398遺物出土状況



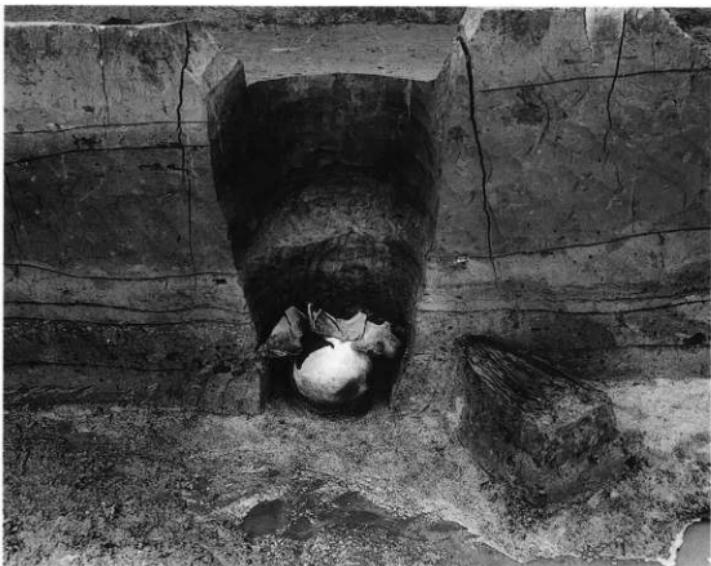
土坑0399遺物出土状況



土坑0426遺物出土状況1



土坑0426遺物出土状況2



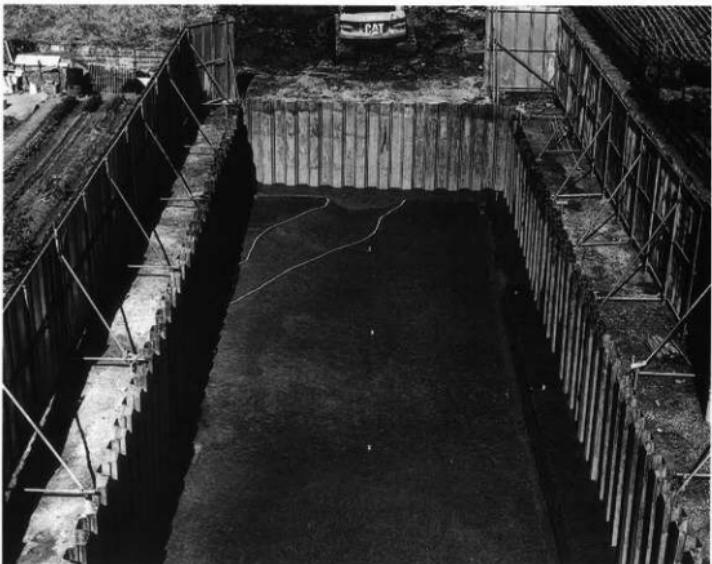
井戸0431遺物出土状況（側面から）



井戸0431遺物出土状況（上から）



B-1調査区東壁土層断面



B-2調査区全景（南から）



溝1002遺物出土状況



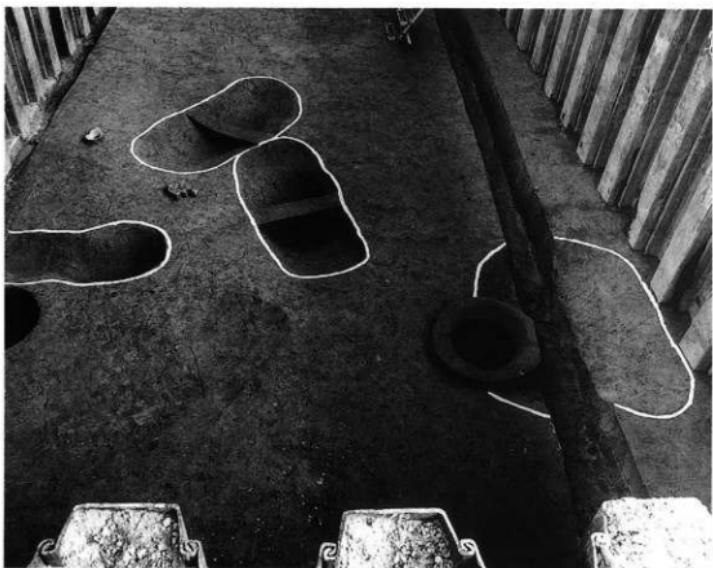
溝1002馬蹠出土状況



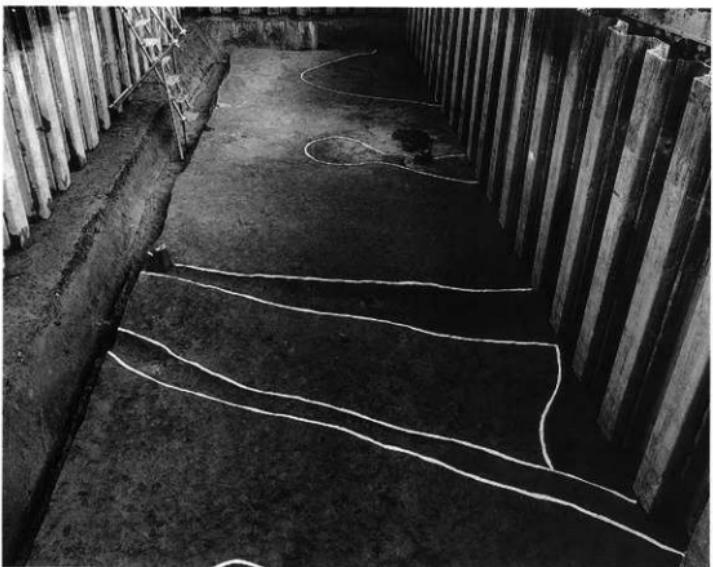
第2造構面（東から）



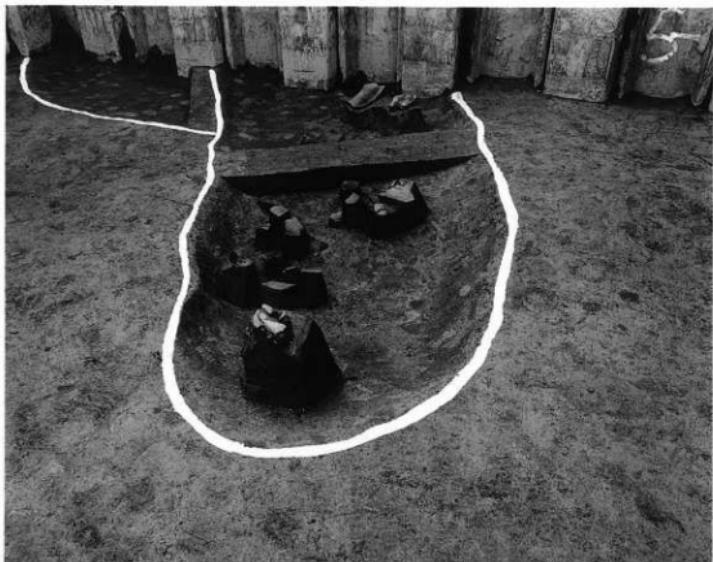
土坑1012遺物出土状況



B—3調査区第3遺構面（西から）



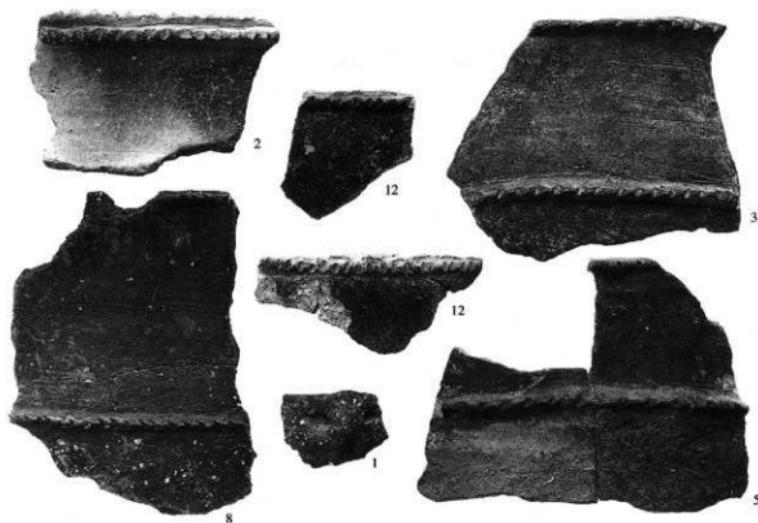
B—4調査区第1遺構面（西から）



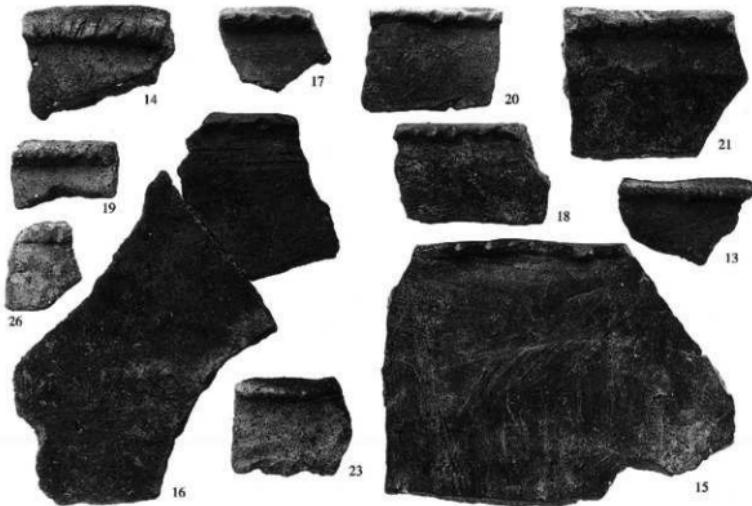
土坑1104遺物出土状況



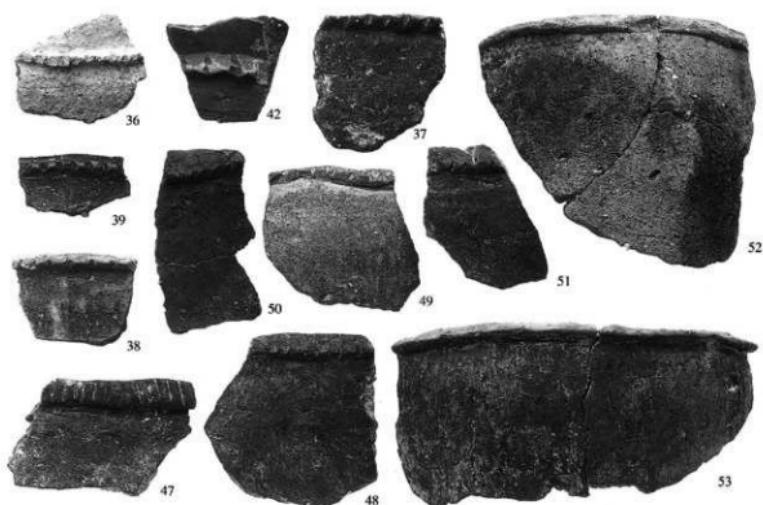
第2遺構面（西から）



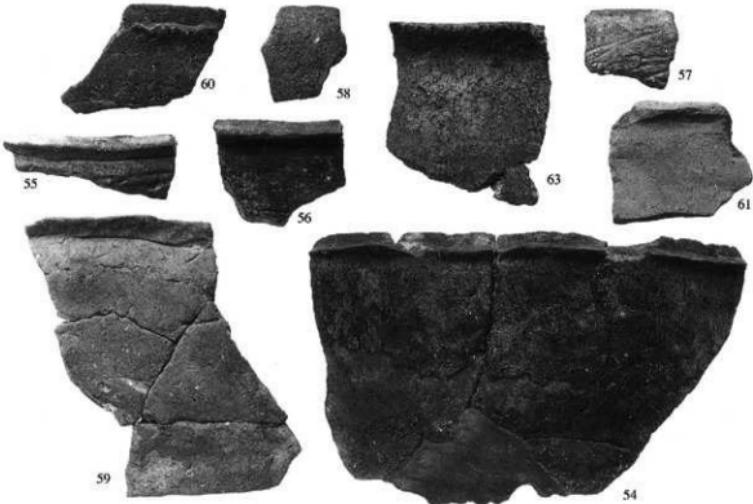
縹文土器 流路0183出土



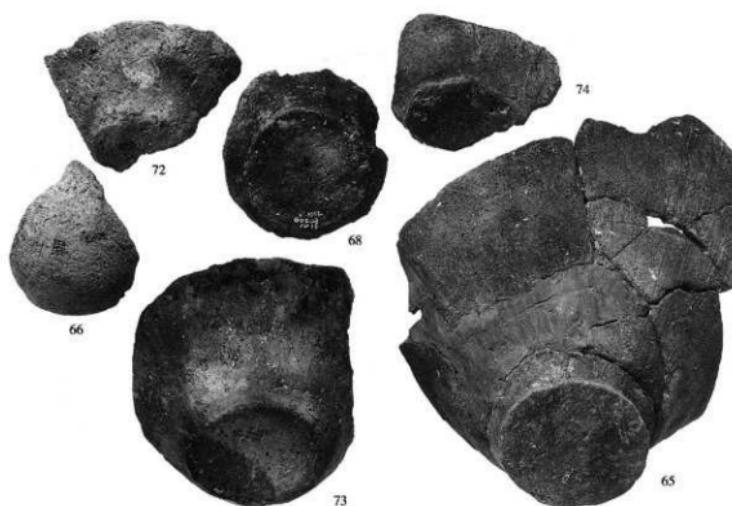
縹文土器 流路0183出土



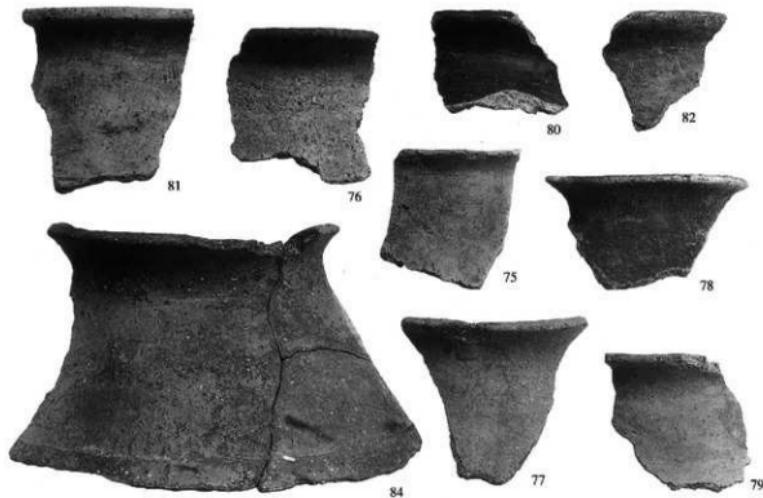
縄文土器 流路0183出土



縄文土器 流路0183出土



縄文土器 流路0183出土



赤生土器 流路0183出土



88



98



101



189



169



191



190



192



226



228



254



256



257



258



260



259



262



261



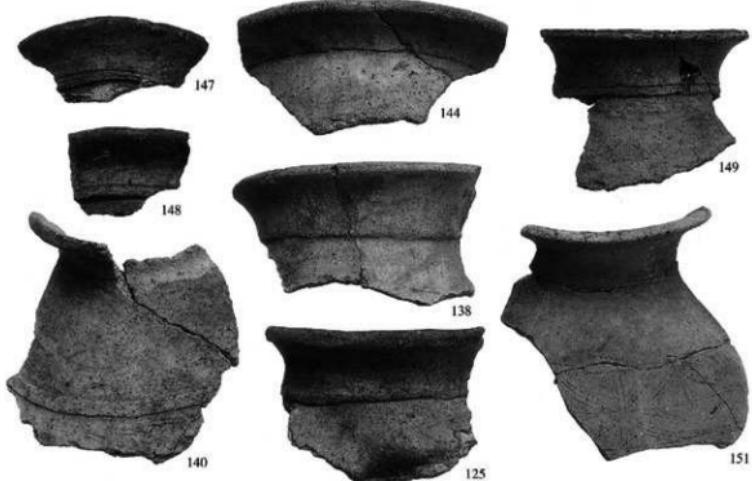
263



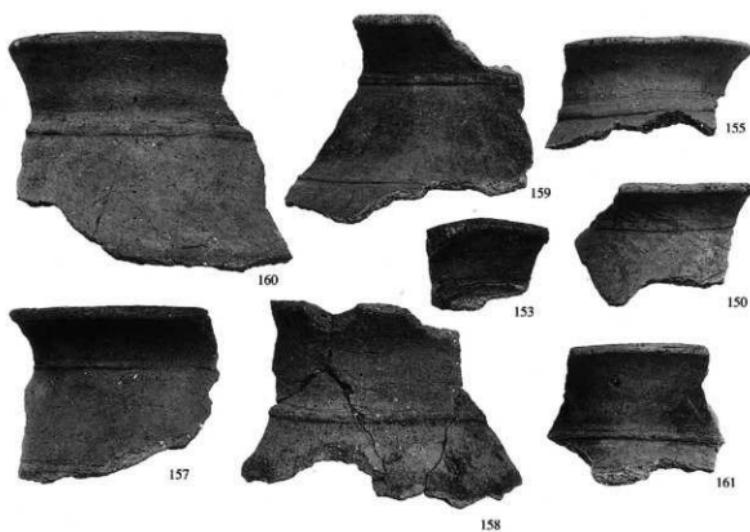
266



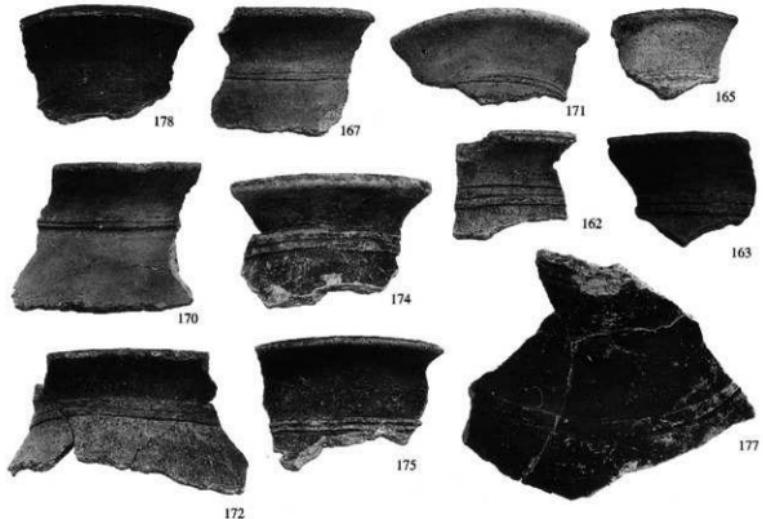
弦生土器 流路0183出土



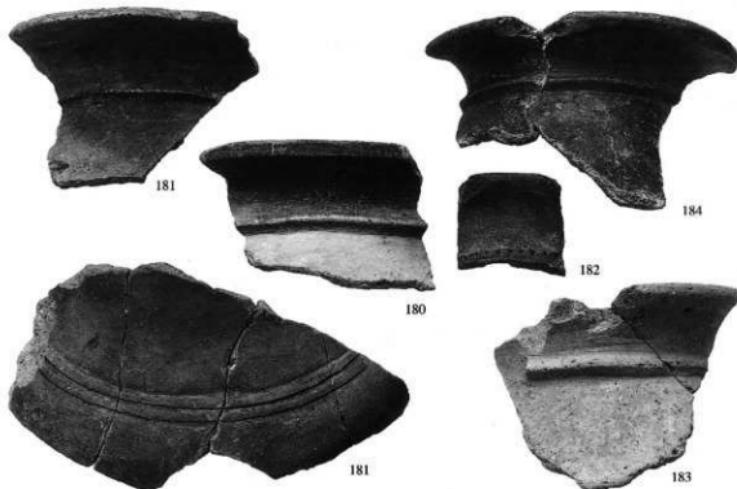
弦生土器 流路0183出土



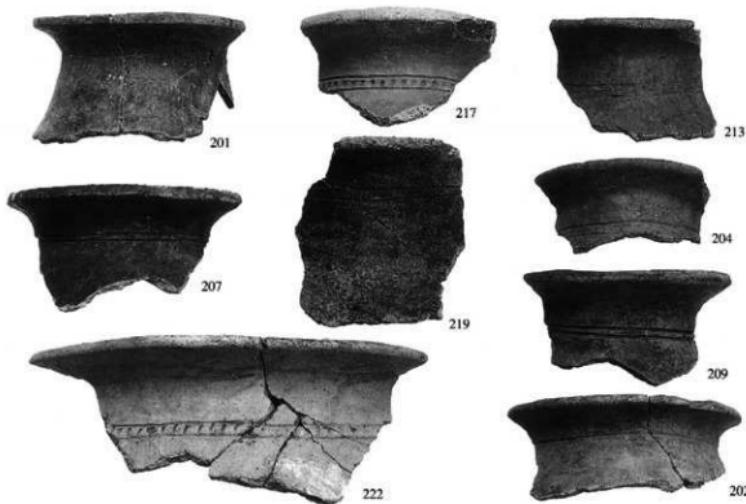
弥生土器　流路0183出土



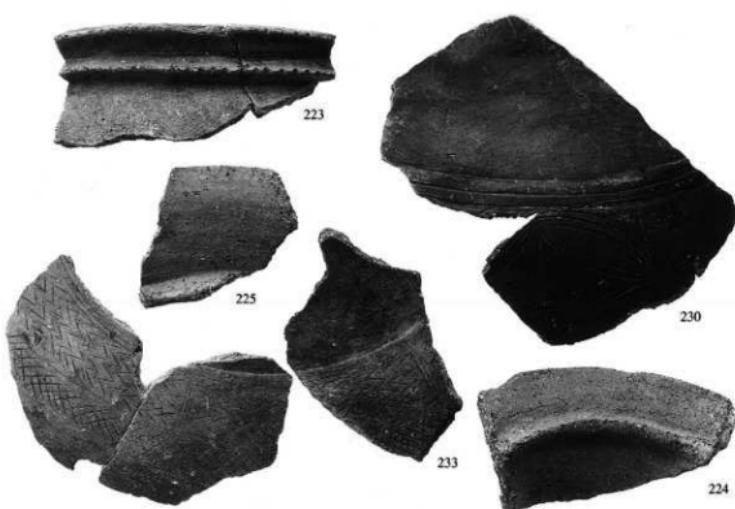
弥生土器　流路0183出土



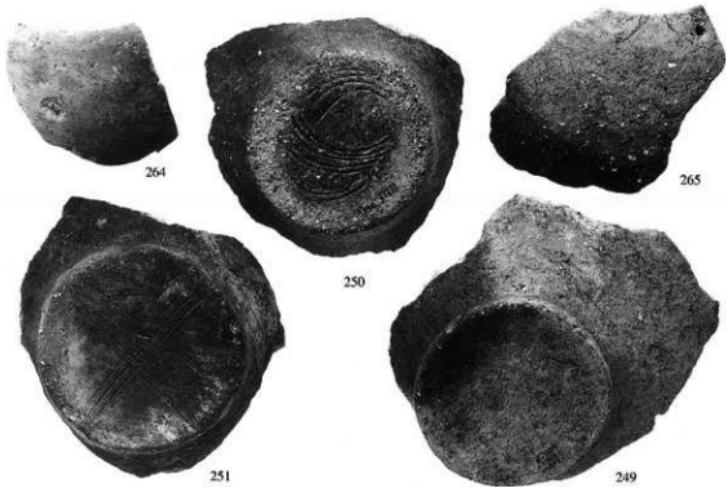
弥生土器 流路0183出土



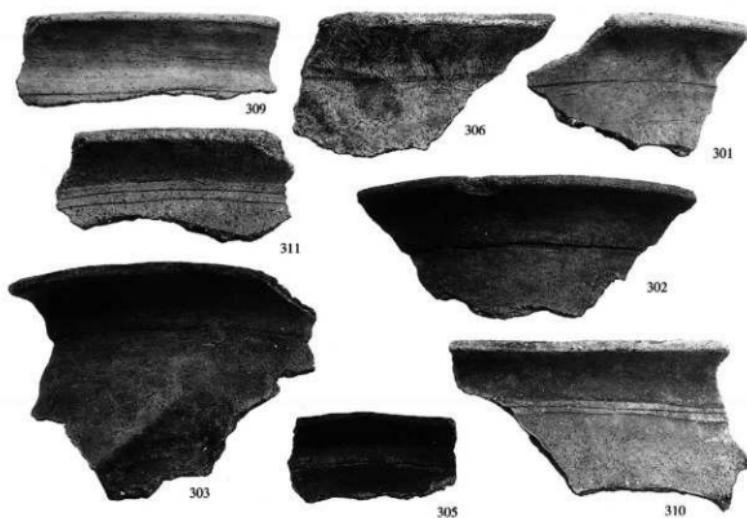
弥生土器 流路0183出土



弥生土器 流路0183出土



弥生土器 流路0183出土



新石器 流路0183出土

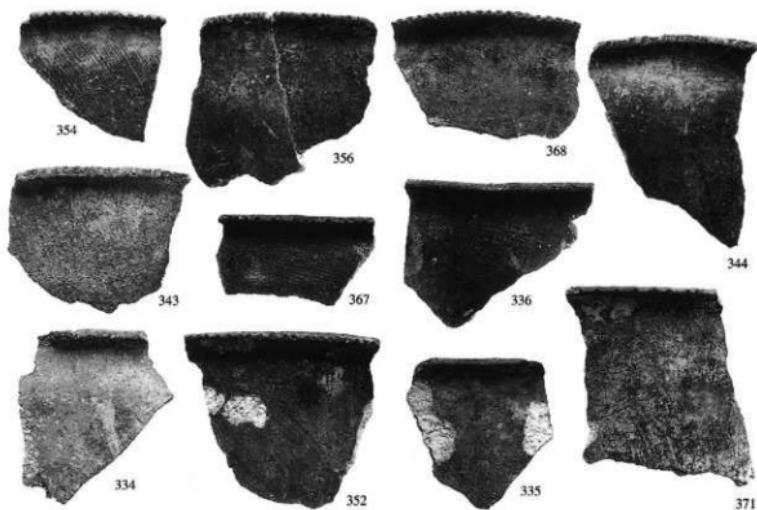


新石器 流路0183出土

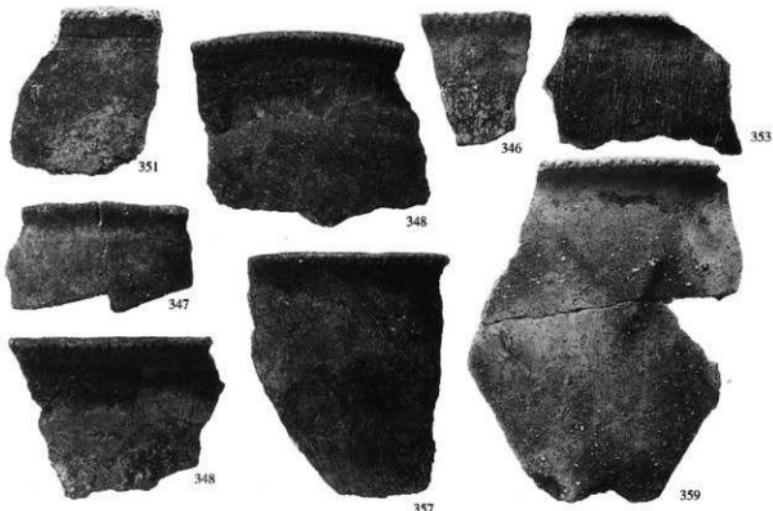


弥生土器　流跡0183出土

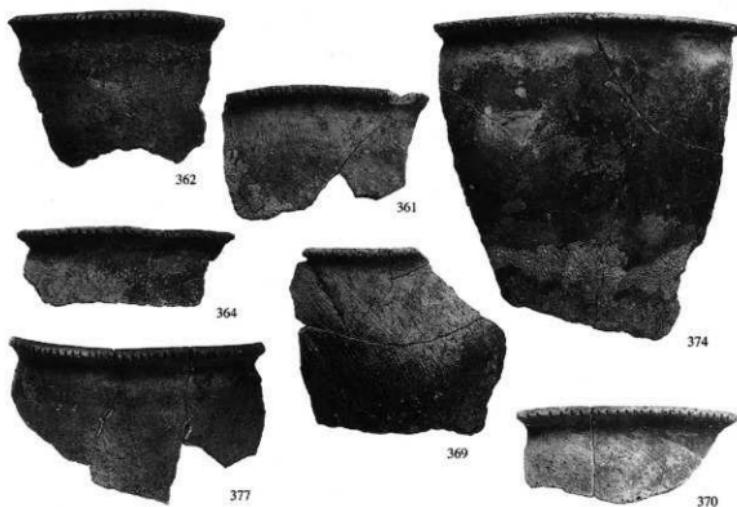




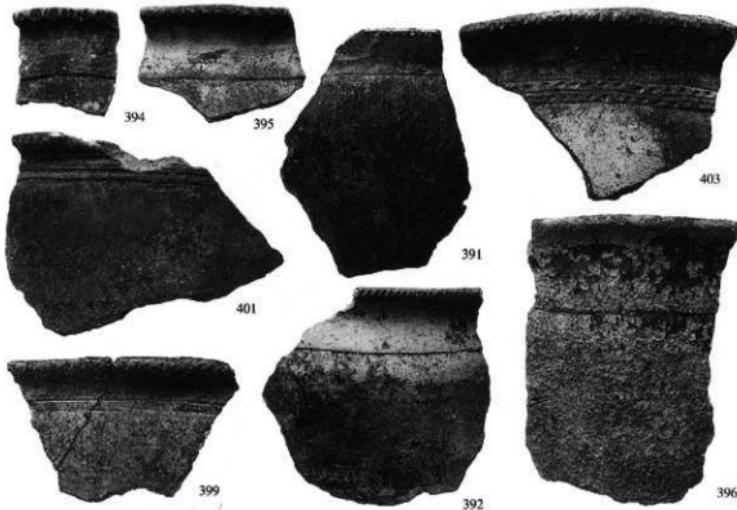
弥生土器 流路0183出土



弥生土器 流路0183出土



弥生土器 流路0183出土



弥生土器 流路0183出土